



3年生, 本格始動

6月1日から3年生の放課後自習が始まりました。まだ活動を残している部活動生を除いて、全員が各教室で16時50分から18時までの70分間、集中して学習に取り組んでいます。その日の授業内容を定着させる時間として、宿題に取り組む時間として、あるいは弱点克服の時間として、それぞれが意図をもってこの時間を活用しています。学習室延長利用も始まっています。許可された生徒は、19時30分まで自習を続けます。放課後自習と合わせて、学校だけで2時間以上の学習時間を確保できます。「受験は団体戦」です。放課後の教室で必死に努力している姿をお互いに見て高め合っていきましょう。

6月28日(月)、北九州予備校の大山純治先生に「キラリ輝く☆ダイヤモンドをめざそう!」という演題で進路講演会をしていただきました。生徒自身にワークシートを活用させながら、受験に向けての準備がいかにか大切かということ、集中力で差が付くこと、そのためには座り方が重要だということ、復習のタイミングや回数で成果が変わることなど、本格的な受験モードに突入した3年生が実行しなければならない内容が大量に詰まった講演をしていただきました。巧みな話術に引き込まれた生徒たちは皆、顔を上げて真剣に聞き入っていました。この日学んだことを意識して、それぞれの進路実現に向けて頑張っていってほしいと思います。

中間考査をどう振り返るか

中間考査が終わりました。今回の結果を受けて、今後の学習をより良いものにしましょう。

テスト訂正をするときには、不正解だった問題はもちろん、正解した問題についても、正しい手順で正解できていたのかの確認を怠らないことが大切です。また、Reflection(振り返り)と同時に、同じ手順で同じ答えを再現できるか、Restructure(再構築)も意識しましょう。提出のための訂正ではなく、大切なことを自分に定着させる、意味ある訂正になっていたでしょうか。

成績に関して、各教科の「総点」に目が行きがちですが、大問ごとの自己分析を怠らないようにしましょう。そして「化学平衡」「内積」「接続助詞」など、自分の苦手分野を絞り込んで書き出し、「見える化」しましょう。自分の課題が分割されると、目的意識が高まります。目的意識が高まれば、その分野に集中できます。この状態を作ることが弱点克服への道となります。

進研模試の受験後

7月3日から模擬試験が実施されます。準備以上に大切なことは、「復習」です。模擬試験の復習の仕方を紹介します。

■1回目ー受験してすぐ

「正答があやふやだったところ」「間違えたところ」等を洗い出し、模範解答を見ながら解き直す。

■2回目ー受験後1～2週間

1回目の復習ポイントを中心に、再度 Restructure(再構築)をして知識を定着させる。

■3回目ー成績表の返却時

合格可能性判定を確認し、志望大の合格ラインまであとどれくらいなのかを数値で把握しよう。次に教科・科目別のアドバイスをチェックし、今後の学習計画の参考にしよう。

大学入試は、知識や計算スキルなどが十分に身に付いていることが前提です。それと同時に、スピードも求められます。復習の質を高め、積み上げた力をスムーズに引き出し、制限時間内に解答を完成させられるようになりましょう。

オープンキャンパスに参加しよう

オープンキャンパスは、進学相談や模擬授業など、大学について詳しく学べる機会です。夏休みに開催のピークを迎えます。大学案内を読んだりホームページを検索したりすることとは全く違う経験になります。また、実際に大学に足を踏み入れ、キャンパスやその周辺の町の雰囲気を感じ、学生と交流することも、自分の進路志望を固める機会となります。できれば現地で参加したいところですが、昨年度から増えているオンライン形式も魅力的です。遠くにあり、通常であれば行けないような大学でも、オンラインなら参加できます。思い切って全国に視野を広げてみましょう。

鹿児島大学は現地とオンライン。

熊本大学はオンライン。

九州大学はオンライン。

参加を希望する場合は、進路資料室で資料を見たり、各大学のホームページを見たりして調べましょう。なお、現地開催の場合もオンライン実施の場合も申込はWEBからになるので、各自で各大学のHPを確認しましょう。

大学入学共通テストまであと199日。頑張れ3年生!

「団訓を見学しながら、こう考えた。」

1年3組 担任 牧之瀬義広

6月17日、久しぶり（今年度は初）に団訓が実施された。今回、1年生は、2年生が行う団訓を見学するという形での参加だったが、2年生の団訓に取り組む姿は素晴らしく、足並みがとてもよく揃っており感心した。1年生にも、是非とも高いレベルで調和のとれた団訓を行ってほしいと切に願う。

まず考えてみた。どうすれば足並みは揃えられるのか。よくやりがちなのは、「周囲の人に合わせる」ことである。しかし、これでは高いレベルでの調和は得られないと思う。「周囲の人」が正しいリズムで駆け足しているとは限らないからだ。大事なのは、「周りに合わせる」のではなく、「理想のリズム」をそれぞれが共有し、各人が「理想のリズム」に合わせる努力をすることであると思う。周りを見ずに、それぞれが「理想のリズム」の追求に集中することで、自ずと歩調は揃うのだ。

私が嗜んでいる弓道には、「調和の美」というものがある。複数人で組（弓道では立（たち）という）を作って射を行う場合、その立の動作が、揃うべきタイミングでしっかりと揃うことが美しく、これが「調和の美」を生むとされている。また、弓道では、すべての動作は「息合い（いきあい・呼吸）」に則って行うこととされている。立の射手（いて）が同じ「息合い」で動作していれば、その立の動作は自然と揃ったものとなるのだ。弓道における「調和の美」を生む「理想のリズム」は、「理想の息合い」であるといえると思う。

さらに考えてみた。集団がより高い次元に進化していくためには、集団に所属するメンバーが、単純に「足並みを揃える」だけではダメだと思う。より高い理想を共有し、それぞれがその理想を追求することが、集団のレベルを引き上げていくことに繋がるのではないか。三綱領の「自主」は、「自主独立」。福沢諭吉の『学問のすゝめ』の一文、「一身独立して一国独立す」から生まれたものである（かな?）。「一身独立～」の文の意味を簡単に説明すると、「一人一人が考えて行動することができるようになることで、国は立派になっていく」ということ（間違っていたらすみません）で、個人一人一人の成長が、組織・集団の成長に繋がるということである。また、五条目の「共励切磋、和して同ずるなかれ」は、協調性をもちつつも、同じることに甘んじることなく、励まし合いながらそれぞれ高みを目指して切磋琢磨することの大切さを説いたものであると私は解釈している。「三綱領・五条目」は理想の個人・集団を醸成するための指標として、よく考えられたものであるとつくづく感心する。

せっかく59期生として同じ学年になった仲間たち。悪い意味で互いに「足並みを揃える」のではなく、高いレベルで「足並みを揃えられる」集団になってもらいたい……………。

2年生の団訓を見学しながら、こんなことを考えていました。

この写真を見て、あなたは何を想像するだろうか。

人の想像は現実を超える。しかるに、昨今、我々の想像は、科学技術の進歩とは反比例するかの如く、しだいに狭くなっているように感じる。誰かが作った世界に引き込まれ、操られているような感覚にも時折襲われる。また、世の中の、役にたつか否か、経済成長やグローバル化などの使い古された言葉に浸食され、規定され、想像する自由すら失っている感もある。

何者にも支配されない自由に身を置いて、無限に想像の翼を広げていきたい。心からそう思う。

さて、先ほどの写真だが、パリ、ノートルダム大聖堂の上に立つガーゴイル (gargoyle:英) である。ガーゴイルとは、元々は雨どいであったが、次第に宗教的な意味合いを持つようになり、魔除けとされるものだ。英国、オックスフォードでもガーゴイルはよく目に入る。ホームステイの引率で訪れた際、英国人スタッフに尋ねた。何のためにあるのかと。すると、それらは聖堂や教会の上であって、人間に「地獄の存在を忘れるな」との戒めだという答が返ってきた。



未来を想像できるだろうか

否定的なことを言うのは気が引けるが、この国の現状を見るに、多くが下降線を辿り、悪いデータばかりが出てくる。コロナでの対応の遅れだけではない。ジェンダーギャップ指数は 120 位。報道の自由度は 67 位で、10 年ほど前の 11 位からの下がりようには、あらためて驚く。日本人の長時間労働や労働生産性の低さは以前から指摘されているが、何ら改善は見られない。

世界に目を転じて、新自由主義の暴走、富の分配の不均衡、貧富の格差の拡大、地球温暖化、加えて人種、人権をめぐる問題など。今の人類の経済・生活を維持するには、地球 1.5 個分が必要とも以前から言われている。

経済成長を前提とする限り、上記の問題の解決は難しそうだ。我慢すべきところは我慢し、公共財をシェアすることで、それぞれが満足し、充実感を覚える生活ができないものだろうか。持続可能な形で。近著 人新世の「資本論」の中で、そう唱えるのは、大阪市立大学准教授の齋藤幸平氏である。

想像の積み重ねには、常に疑問を抱き続けることと、言葉による納得のいく説明の両方が必要である。根源的なところで、自分自身に問うてみる。「何のために」、「なぜ」、「どのように」、それに言葉でしっかりと説明ができるのであればいい。あとは、自分のコア、信念に従って、行動を起こすだけだ。

人任せでは、どこに、どんな未来に連れて行かれるかはわからない。気づいたら、崖っぷちかもしれない。

最後に

想像は想定を生み、想定は余裕を生む。決めつけや思い込みは、狭隘 (きょうあい) な発想を生み、やがて失敗へと通じる。勉強も然りである。試験を受ける前には、是非出題者の意図も想像してみたい。コミュニケーションにおいても、他者の立場に身を置いて考えることで、想像は広がり、共感や配慮は人間関係を良好に保つ。

想像し、思考を深めよ。そして、行動せよ。

未来に向かって

3年2組 副担任 黒木明男

振り返るな

試合中や大会後に、試験中や試験後にあの時こう動けば良かったとか、審判がどうだったなど終わったことを振り返っても現在の結果は変わらない。それよりも、次にこうしようと具体的な行動をどのようにするかを考えてみよう。どう動けば、目標を達成できるのか、自分にできることを具体的に考えてみよう。

対話を大切に

授業でわからないこと、テストの訂正をされていてよくわかっていないことをまず、自分で考えることは大切です。しかし、考えてもわからないことは沢山あります。そんなときに一人で悩まずに、友達に先生に聞いてみよう。このとき、一方方向にならないように対話をしていくことがお互いの理解を深めていきます。対話をするとう理解が深まるだけでなく多様な視点・考え方が広がります。対話を通して、自分の知識の構造を再構築して、問題解決の力を育てていこう。焦らず、すぐに覚えようとせずに理解することに時間をかけていこう。最初は時間がかかるとは思いますが、他人との対話の後に、自分との対話などを繰り返していくことが今後につながっていくことと思います。学習方法などいろいろな事も話題にしてみよう。

あきらめない

学習をしていく過程で、このままでいいのか、今やっている教材や方法がいいのか、自分の選択した進路でいいのかと悩みもつきない。日々の努力がすぐにテストの結果に表れずに心が折れそうになることもあるでしょう。諦めてしまいそうになることも度々あることでしょう。勉強以外に悩むこともあるでしょう。つらくて投げ出したくなる時は、いったん休むことも大事です。逃げるは恥だが役に立つ。勇気の炎は消さずに、よりよい答えを焦らずに探してみよう。その前向きな行動が、前向きな気持ちを起こし、自分に必要な言葉(答)に出会うことと思います。

何を、どのように学ぶかは、自分がどのように生きるかと同じです。

学ぶことは、生きること

ゆっくり、いそげ